

シリーズ ⑬

我が家の家庭教育

篠本二区 田山 みさ江

若くして農家に嫁ぎ、何もわからず、無我夢中で毎日をごとしてきました。こんな生活の中で、子供三人の母となり、悩んだり苦しんだりの連続でした。幸い、家族の協力でなんとかここまできりぬけてきました。こんな訳だったので、家庭教育と言われても、ピンときませんが、我家の様子を書いてみます。昔は親の一言で子供はピシ

ツと言う事を聞きましたが、今はそういう存在感のある親は十人に一人位ではないでしょうか。我家の夫もその中の一人です。出かける機会が多いので、あまり子供達との会話もしていませんが、たまに「テストどうだった」と聞いた

健康第一 個性豊かに

りします。すると息子は「むずかしくて思ったよりできなかった」と残念そう。するとすかさず「父ちゃんの中学時代は何でも一番で通っていたんだからおめえも頑張れ」と

励ますように話す。息子は「父ちゃんの時代は問題がやさしかったんだろ」と軽くあしらわれてしまいます。こんな息子の成長を喜ぶべきか、悲しむべきか考えさせられます。

ともかく、私もあまり面倒見の良い方ではないので、ほとんどなりゆきまかせという感じですが、三人子供がいれば三人共言いはあり、どの話を聞いても自分が悪いようには言いません。そこで兄弟げんかが始まります。「あんちゃんが先に手を出した」「俺は手を出さねえよ」など

と言いつ張る。何分か言い争いをしたのち片方がメソメソと泣きだし終りとなります。そ



田山さんご一家

して五分とたたないうちに「あんちゃんこの問題おしえて」

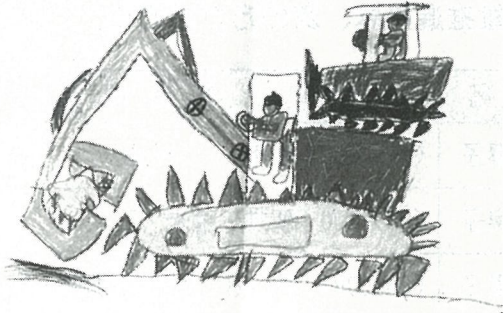
などと仲直り。こんな場面も兄弟だからこそできるコミュニケーションの一つのついでではないでしょうか。これからも、子供達と泣いたり笑ったり毎日が続くことでしょうが、健康第一に個性豊かな人間に育つことを願いつつ、私も仕事に汗を流します。



児童・生徒

作品コーナー

今月の児童・生徒の作品コーナーは、東陽小学校児童の作品をご紹介します。

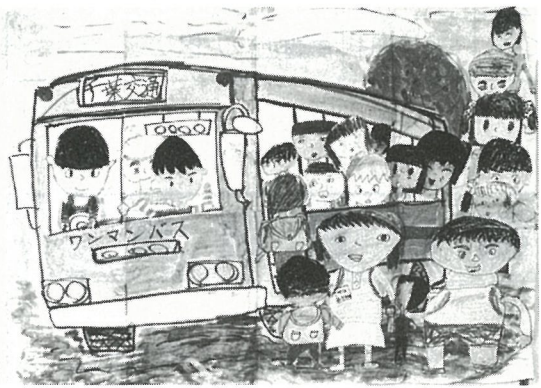


ショベルカーとブルドーザー



1年 鈴木佑介くん

大きな手みたいなのところが、むずかしかった。



楽しい遠足



2年 遠足のバスグループ (社会科見学発表の時)

これからアスレチックに行く楽しい様子を書きました。